

事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされておりますので、保護者様・来訪者様等の
閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

東京都福祉サービス第三者評価(2024年度) 評価結果報告書

2025年3月31日

社会福祉法人森友会
いずみの森保育園

御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿西新宿8-14-24
西新宿KFビル702

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号

機構 03

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 中込 重秋



以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H0702006	☒ 福祉	☒ 経営
	②	H1501067	☒ 福祉	☐ 経営
	③	H1102033	☒ 福祉	☐ 経営
	④	H0902065	☒ 福祉	☒ 経営
	⑤	H1001023	☐ 福祉	☒ 経営
	⑥		☐ 福祉	☐ 経営
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	いずみの森保育園			
事業所連絡先	〒	201-0013		
	所在地	東京都狛江市市元和泉1-10-10		
	TEL	03-5761-7747		
事業所代表者氏名	伊藤 能光			
契約日	2024 年	7 月	1 日	
利用者調査票配布日(実施日)	2024 年	10 月	15 日	
利用者調査結果報告日	2025 年	1 月	11 日	
自己評価の調査票配布日	2024 年	10 月	15 日	
自己評価結果報告日	2025 年	1 月	11 日	
訪問調査日	2025 年	1 月	17 日	
評価合議日	2025 年	1 月	17 日	
コメント (利用者調査・事業評価の 工夫点、補助者・専門家等 の活用、第三者性確保の ための措置などを記入)	・利用者調査は共通評価項目により、インターネットでのウェブアンケート形態で実施した。また調査開始時に書面・ポスターの配信または配付・掲示等により保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と提出促進を兼ねたチラシを全対象者に配信または配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回答率向上にも努めた。 ・事業所には開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がより的確なものとなるよう配慮した。			

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） ・保育理念「すべての子どもの最善の利益のために」 ・「心身の調和的発達」「基本的な生活習慣」「集団への参加と自主協調の態度」「正しい言語生活や自然・社会現象に対する興味と関心」「子どもらしい表現によって、生きる力の基礎」の5つをバランスよくはぐくむ保育。 ・異年齢での合同保育の実践 ・営める保育の実践 ・子どもが夢中になって遊び込めるような環境設定
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） (1)職員に求めている人材像や役割 これからの社会情勢を踏まえて仕事ができ、常に新しいことに挑戦できること。子どもの安心安全に対し常に注意を払える人材。 (2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) 法人の理念である、子どもの最善の利益を常に考え、実行し、考察できることを期待します。

調査対象

調査開始時点での当園の利用世帯85(在籍児童数102)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。ウェブアンケート形態により実施し、回収は保護者から評価機関への直接電送(外国語世帯のみ調査票の直接郵送)にて行った。結果は選択式・自由記述とも園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

102
85
85
68
80.0

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」52.9%・「満足」39.7%の計92.6%と高い値を得ており、設問別でも「子どもの興味・関心の伸長」「保護者に配慮した行事日程」「子どもの気持ちの尊重」など、全17問中13問で80～90%台の高い支持を得ている。

自由意見では「縦割り保育で自分の興味のあることや友達と日々遊ぶことができ、自主性を重んじてくれ、子どもの様子もわかりやすく伝え、相談にも親身に応えてくれる」「園庭が広く、遊具も大きい点がよく、保育士さんたちも明るく優しい点がとてもありがたい」「先生方が若くはつらつとしていて建物も新しく、玩具が定期的に変わる刺激もあり、イベントも充実していて子どもによい刺激があり、固定概念にとらわれない保育のあり方が素敵だと思っている」「毎月の制作活動や表現活動、異年齢保育が特色だと思う」「駅からのアクセスがよくお庭がしっかりとあり、泉龍寺など近隣の自然豊かなところに遊びに行けるのも、子どもに学びが多い」「子どもの意思で遊びを決められるため、より集中して深掘りできる」などの声が寄せられている。

要望などとしては、保育内容や職員の体制、安全・保健衛生や設備に関することなどが見られた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	65	2	0	1
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が97.0%、「どちらともいえない」が3.0%となっており、「はい」の値は前回(2021年度・以下同、86.4%)からさらに向上している。 自由意見は18件で、「異年齢と関わるので下の子に優しくしたり上の子に教えてもらったりと成長していて、また制作や造形の時間もあってとてもおのびのび楽しんでいる」「行事は趣向を凝らしているいろいろやってくれ英語や造形活動もとてもよいと思う」などのほか、年齢に応じた活動内容等に関する意見があった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	64	3	0	1
「はい」が95.5%、「どちらともいえない」が4.5%となっており、「はい」の値は前回(83.3%)からさらに向上している。 自由意見は15件で、「表現活動や造形活動等、本人も楽しみにしているようで、興味の幅も広がっている」「造形や表現はもちろん、教具もたくさんあり、本人も楽しそうだ」「歌や踊り、折り紙などいろいろな遊びをしてくれている」「ままごとや工作コーナー、ブロック遊びなど遊びの選択がたくさんあり、興味のあるもので遊んでいる」などのほか、戸外活動の充実に関する声も見られた。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	61	4	2	1
「はい」が91.0%、「どちらともいえない」が6.0%、「いいえ」が3.0%となっている。 自由意見は11件で、「ビュッフェスタイルになっていて、その日の体調に合わせた食事が取れる」「季節に合わせた食材を使用し、行事ごとに工夫がされていて楽しいようで、本人も毎日『おいしかった! お野菜も食べたよ!』と、笑顔で言っている」「園で手作りしており、様子も見ることができるので安心して、おやつも手作りのものが多く、栄養も考えられている」などのほか、離乳食の提供などについて、さらなる配慮を望む声が見られた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	52	11	4	1
「はい」が77.6%、「どちらともいえない」が16.4%、「いいえ」が6.0%となっており、「はい」の値は前回(54.5%)から改善されている。自由意見は17件で、「農園に行ったり、植物を育てたり、昆虫を育てたりありがたい」「散歩に行き、道中では交通ルールを守ったり、ピクニックに行って野外でお弁当を食べたり、いろいろな活動があり、多くの経験をさせてもらえて感謝している」「たくさん園で遊ばせてもらえているようで、とてもうれしい」などのほか、戸外活動等のさらなる充実を望む声が寄せられている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	54	2	1	11
「はい」が94.7%、「どちらともいえない」が3.5%、「いいえ」が1.8%となっている。自由意見は11件で、「急遽取り決めた時間を過ぎても、補食として煎餅をあげてくれたりと助かっている」「延長時間までの変更はしたことがないが、予定していた迎え時間の変更を連絡した際は、嫌な雰囲気も全然なく対応してくれた」「非常に保護者にとっては楽な部分が多い」「延長保育も利用しやすく、助かっている」などのほか、利用時間変更時の融通性や土曜保育の食事について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	51	14	2	1
「はい」が76.1%、「どちらともいえない」が20.9%、「いいえ」が3.0%となっており、「はい」の値は前回(59.4%)から改善されている。自由意見は19件で、「2階の階段前に鍵つきの扉が取り付けがあるので安心である」「十分気にしてくれていると思う！ 異年齢保育でこれだけ安全なのは先生方の努力の賜物かと」「災害時の避難訓練などはしっかりしてくれていると思う」などのほか、保育中の安全管理や外部侵入対策、感染症対策、設備面等について、気になる点や要望が挙げられている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	67	1	0	0
「はい」が98.5%、「どちらともいえない」が1.5%となっている。自由意見は7件で、「子どもたちの行事は平日の日中に、親子での行事は土曜日の午前中に設定されており、参加しやすい」「土曜保育やイベント当日のことにに関して事前にアンケートを取ってくれ、お知らせを前もってもらえるので、仕事の調整がしやすく助かっている」「年間で出してくれるので、把握しやすい」などのほか、行事日程等の連絡などにおける各家庭への配慮について、さらなる検討を望む声が見られる。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	59	9	0	0
「はい」が86.8%、「どちらともいえない」が13.2%となっており、「はい」の値は前回(64.1%)から改善されている。自由意見は13件で、「よく心配事など相談させてもらっているが、子どもに寄り添ってくれ、園での方針と家での関わり方などアドバイスをくれて助かっている」「親身になって聞いてくれる」「降園時の引き渡しの際にいろいろと話せて助かっている」などのほか、日頃の子どもの様子などの伝達・報告やコミュニケーション機会の確保、送迎時の職員の対応について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	64	3	1	0
「はい」が94.1%、「どちらともいえない」が4.4%、「いいえ」が1.5%となっている。自由意見には「先生方が清掃、整理整頓してくれているのを見かける」「教室に入れないので、送迎で入れるところは物も置きすぎたりせず、整理されていてきれいだと思う」「いつも清潔で安心してきている」「とてもきれいだと思う！」など5件の声があった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	59	8	1	0
「はい」が86.8%、「どちらともいえない」が11.8%、「いいえ」が1.5%となっており、「はい」の値は前回(64.6%)から改善されている。自由意見は10件で、「皆さん明るく優しいので安心できる」「先生方にも個性があり、先生と子どもたちが打ち解けやすい工夫もされていてよいと思う」「髪色が個性的だったり服装が自由なのが最高で、子どもたちにはいろいろな大人に接してほしいと考えているのでとてもよい」などのほか、職員の保護者・子どもへの言葉遣いや接遇、身だしなみについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	64	3	1	0
「はい」が94.1%、「どちらともいえない」が4.4%、「いいえ」が1.5%となっている。 自由意見は13件で、「発熱時や体調不良時、様子を見ながら総合的に判断して連絡をもらえるので助かる」「細かく状況を伝えてもらえるので安心できる」「ケガをした時は迎えの時に詳細(ケガの原因、対応)を教えてくれ、熱が出たり体調が悪くなった時も状態に合わせて対応してくれ、保健の先生もいるので信頼して任せられることができる」などのほか、発熱時の対応やケガ等の保護者への連絡について、さらなる配慮を望む声が見られる。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	40	12	1	15
「はい」が75.5%、「どちらともいえない」が22.6%、「いいえ」が1.9%となっており、「はい」の値は前回(61.5%)から改善傾向が見られる。 自由意見は13件で、「子どもたちだけでは解決できない問題があった際は先生方が仲介し、対応してくれているようだ」「ぶつかり合いがあってもわだかまりはないようなので、先生方の対応のおかげだと思っている」などのほか、「まだそういったトラブルがないのでわからない」や、子ども同士のトラブル発生時の対応、保護者への報告・説明について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	67	1	0	0
「はい」が98.5%、「どちらともいえない」が1.5%となっており、「はい」の値は前回(82.8%)からさらに向上している。 自由意見は11件で、「子どもは先生たちが大好きなので、毎日しっかり対応してくれているのだと思う」「行事等での関わり方を見てみると、安心して預けられると思う」「いつも子どもの気持ちに寄り添ってくれて感謝である」な「とても大切に接してくれているのを感じる」などのほか、保育者の子ども一人ひとりへの関わりや目配りについて、さらなる配慮を望む声が見られる。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	54	9	1	4
「はい」が84.4%、「どちらともいえない」が14.1%、「いいえ」が1.6%となっている。 自由意見は6件で、「配慮してもらっている」のほか、「今のところはわからない」や、プライバシー保護等へのさらなる配慮を望む声が寄せられている。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	62	6	0	0
「はい」が91.2%、「どちらともいえない」が8.8%となっており、「はい」の値は前回(54.7%)からの顕著な改善が見られる。 自由意見は9件で、「普段は簡潔に説明してくれているが、質問すればより丁寧に説明してくれるので、わかりやすいと思う」「降園時の引き渡しの際にいろいろと伝えてもらえるうえに、連絡帳も毎日丁寧に記入してくれていて助かる」「丁寧に説明してくれる」などのほか、子どもの成長・発達や日頃の生活、保育内容等に関する保護者との共有について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	57	6	1	4
「はい」が89.1%、「どちらともいえない」が9.4%、「いいえ」が1.6%となっており、「はい」の値は前回(66.1%)から改善されている。 自由意見は10件で、「夜寝つきが悪いのでご相談したところ、対応してくれ、とても助かった」「親切に話を聞いてくれ、丁寧に対応してくれていると感じる」「小さな要望や質問にも丁寧に対応してくれてありがたい」「しっかりと耳を傾けてくれている」などのほか、「あまりそのような場面がない」や、保護者の不満・要望等への対応、組織内の情報共有について、さらなる配慮を望む声が見られる。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	30	19	6	13
「はい」が54.5%、「どちらともいえない」が34.5%、「いいえ」が10.9%となっている。 自由意見には「知らせてくれた」のほか、「困ることが特にないのでわからない」「特に困っていないので非該当である」の3件があった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	保育理念や保育の特徴を各種媒体にて発信し、保護者にもその実践の内容を伝えている 保育理念を「すべての子どもの最善の利益のために」とし、子どもの行動や存在そのものを受けとめ、受容と共感を「誉める」行為によって伝える「誉める保育」、年齢を越えた子どもたちの育ち合いを促す異年齢保育、子どもたちが自らやりたいことを見つけて遊び、食べる時間も自分のペースで決められるなど、子どもの主体性の尊重と自立心の育みなどを保育の特徴とし、「コンセプトブック」やホームページなどで発信している。保護者にはこれらを見学・入園時に説明し、実践の内容を園便りや「もりんびっく」などの行事を通じて共有に努めている。 経営層の役割を明示し、園長は職員のアイデアを実践に活かせるよう支援に努めている 「誉める保育」など園の特徴とする保育の実践を通じて、「すべての子どもの最善の利益」を追求する組織体系を構築するため、園長・副園長・主任保育士などの経営層の役割と責任を明確にし、重要事項説明書や役割分担表、職位機能組織図などに明示している。園長は保育実践の中核を担う職員との面談に臨む際には、期待する役割のほか、園長作成の「経営方針」にて、園が取り組む重点項目を説明している。また職員の自発的な活動を促し、組織の活性化を図るため、職員の気づきやアイデアを実践に活かせるよう、園長は積極的な支援に努めている。 保育実践や諸業務における課題の検討と、決定及び周知の仕組みを整えている 園内の諸業務の進捗の確認や事故事例の共有、人事・労務関係の周知は、職員会議にて行われている。フロア単位の保育内容、環境構成の工夫、行事への取組、子どもの成長・発達、保護者支援については毎週フロア会議にて話し合い、その内容はリーダー会議・職員会議で共有する仕組みとしている。各会議の不参加者には、議事録や各「フロアノート」等で必要な情報が周知され、保護者には主にアプリ配信により、種々の重要事項を伝えている。緊急を要する事案が発生した場合には、経営層を中心にマニュアル等を確認しながら対策を講じている。	

カテゴリー2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当

サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
保育理念の実現に向け、業界の動向や地域ニーズ、保護者や職員の意向を収集している 保育理念の実現に向け、社会や福祉業界の動向や地域の福祉の現状の把握に努めており、都の民間保育所の団体や市の保育所園長会などの保育所関連の団体や、子育てに関する他団体からなる「子育てを考える会」に参画して情報を得るほか、行政からの発せられる広報物や各種メディアの情報も参考としている。また保護者の意向・要望については、日々の送迎時の対話や個人面談のほか、行事後に実施するアンケート、第三者評価受審時の利用者調査などから収集し、職員の意見は各種会議を通じて集約して改善につなげ、異動等の意向は面談にて確認している。 収集した情報と法人策定の「中長期・短期事業計画」から事業・保育計画を策定している 社会や福祉業界の動向、地域ニーズ、保護者の要望、職員の気づきなど、園をとりまくさまざまな情報の収集に努め、それらと、法人の「重点課題」と取組事項、目標水準と達成の時期が一覧化されている法人作成の「中長期・短期事業計画」を踏まえ、単年度の事業計画を策定している。事業計画には、保育内容の充実・質の向上、人材育成、保護者支援、保健衛生、施設整備等に関する方針や取組内容を明らかにし、保育実践については、全体的な計画をもとにする保育・食育・保健の各計画のほか、安全計画を策定し実践につなげ、予算措置が講じられている。 園が目指す保育の充実を図るため保育計画の実効性を高めるための改善に取り組んでいる 園が特色とする、子どもの主体性を尊重し自立心を育む保育の充実を図るとともに、職員の保育事務の負担の軽減を目的として、今年度保育の計画策定と実践のプロセスを見直している。これまで全体的な計画をもとに、長期的な年間計画を、月間・週間の短期的な計画に展開させてきたが、月間指導計画は作成せず、週間の計画を、年間計画に記した子どもの育ちを意識して作成・実践している。短期的には見えづらい主体性や自立心など心の成長の様子を、職員間で確認しながら保育実践を重ねられるようになるなど、変更の効果が現場にも実感されている。		

カテゴリ3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準项目实施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準项目实施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリー3の講評		
法人共通の保育者・職員としての規範に関する啓発を行っている 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法のほか、各種マナー・身だしなみをはじめとする社会人としての各種心得や、子どもの人権・尊厳と主体性の尊重、守秘義務の厳守など、法人の保育者として守るべき規範・倫理に関する規範・倫理については、入職時に啓発がなされている。また全職員が法人共通のチェックリストをもとに、施設内虐待防止の観点で子どもへの日頃の言動を振り返るほか、常勤者は園長・副園長と一般職員の各階層で、それぞれの職位で求められる規範について、「自己評価シート」による内省を毎年度行っている。		
園内及び家庭内での虐待防止のための体制を整えている 「子どもへの接し方振り返りアンケート」により、虐待にあたる言動を子どもたちに対して行っていないか、全職員が毎月振り返りを行っている。また子どもへの言動については、各階で常に複数名の保育者が援助にあたる体制も、最適化の一助となっていると考えられる。虐待等が懸念される子どもや家庭への支援について、関係機関との連携体制を整え、市主催の虐待防止に関する研修会にも職員を派遣するほか、園内研修では傷やあざがあるなどの子どもの身体の状態、態度などに異変を感じた際の対処の仕方や特徴について、再周知が図られている。		
地域に対し、情報発信や実習生の受け入れ、関係者会議への参画などの取組を行っている 透明性を高めるために、園の情報をホームページや市の各種媒体を通じて発信している。保護者の要望・苦情の受付制度も整備され、保護者へ入園時に周知を図るほか、日々の会話・連絡帳や玄関の「ご意見箱」等での意向の把握と、案件に応じた対応にも取り組んでいる。近隣の中学生の職業体験や実習生を受け入れ、待機児童解消のため、市からの要請に基づき、定員を超えた保育の実施に応じている。地域の一員としての役割を果たすため、粕江市の園長会に参画して情報交換を行うほか、市内の民生委員会との連携にも努めている。		

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準项目实施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準项目实施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
子どもの発達を保障しつつ、リスクを抑制できるようさまざまな取組を行っている 保育理念「すべての子どもの最善の利益のために」のもと、保育において、子どもの発達を促す自由な遊びの広がりを保障しつつも、命と健康を脅かす種々のリスクを抑制できるよう、さまざまな取組を行っている。保育中のケガ等の事故は発生時の状況を、保育室内の録画映像なども活用して検証し、原因や防止対策を検討し、各種のヒヤリハットも同様に収集と検証に努めている。また子ども自身が自らの身のケガの予防や安全への意識を高められるよう、遊具や道具の使い方のほか、緊急時の姿勢や行動、交通ルールなどを教えている。 防災訓練や不審者対応訓練、BCPの整備など、さまざまな事態への対策を行っている 毎月の防災訓練はさまざまな想定のもとで実施しており、園外での遭遇を想定した不審者対応訓練や、心肺蘇生術や嘔吐処理など実技訓練も行われている。保育室にはSIDS発生時や食物アレルギーに起因するアナフィラキシーショック等の緊急時における職員の役割や対応を示した手引きを備えている。また猛暑時の戸外活動等の自費や適時の水分補給など熱中症への対策にも努め、所定の点検表による周期的な園内の安全確認もなされている。災害・感染症の発生を想定した業務(事業)継続計画(BCP)を整備している。 各種情報について、適切な利活用と漏洩防止のための仕組みと環境を整備している 情報の重要性や機密性を踏まえ、各種情報の取り扱いについて、法人共通の各種規程やマニュアルに、基本原則や実務上の運用ルールを定め、職員には入職時などにそれらの徹底を促している。各種書類の機密性に応じた施錠管理、情報端末・ソフトウェア類のセキュリティ対策やアクセス権限の設定など、情報漏洩防止のための対策がさまざまに講じられている。また実習生等には受け入れ時に守秘義務の厳守を求め、保護者には入園時に利用目的などに関する説明を行ったうえで、個人情報の利用の同意のほか、肖像利用の可否についても確認している。		

5 職員と組織の能力向上		サブカテゴリ1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		12/12	
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当	
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当	
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当	
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当	
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当	
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当	

サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に 活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-5の講評		
人材の確保に努め、園内での配置は本人の希望とフロアのバランスを考慮して行っている 事業所が求める人材の確保ができるよう、法人サイトや各種SNS、養成校・関連業者を通じた求人や在職者への人材紹介奨励、養成校訪問や関連イベント出展など、多様な方法で人材の募集・採用を行っており、採用試験は受験者ができる限り希望する園で実施している。就業状況の管理やストレスチェックなど、労働環境の整備にも取り組んでいる。配属・異動は法人の人事委員会が行い、園内の配置は本人の希望を尊重することを基本としつつ、フロア内のバランスや、子どもの特性、職員の得手・不得手を考慮して行っている。 個別の面談や「振り返りシート」を通じて職員と個人の目標を共有し成長を支援している 「いずみの森年度当初面談資料」を用いて、職員の成長支援に取り組んでいる。職員が当年度の目標と現状、取り組みたいことを同資料に記して年度当初に園長に提出し、その後園長が面談にて目標への取組内容や進捗を確認し、賞賛や助言を行っている。また法人共通の「振り返りシート」に、一般職員と園長・副園長の各階層で求める能力・態度等に関する項目を定め、各人の自己評価と年度の振り返りを行っている。職員面談の際には、園が期待する役割と必要な学びについて言及し、後述の法人内の研修や、外部の研修に派遣している。 職員が学びを深められるよう研修に派遣し、良好な職場環境を整えられるよう努めている 「誉める」保育について、現場の視察と話し合いを通じて学びを深める研修のほか、階層に応じた各種研修やオペレッタの研鑽、「保育の質向上委員会」による各園の視察と指導、OJT担当者向けのヒューマンスキル研修など、法人内に多様な研鑽の機会を設けている。園内ではフロア会議など日々の保育を振り返る機会を設けて職員相互の学び合いの機会とし、研修報告によって知見の共有に努めるほか、今年度委員会活動を開始しており、職員が園の課題解決や改善に主体的に取り組むことを通じて、気づきや学びが得られている。		

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 開園後ほどなくしてコロナ禍となり、保護者との対話の機会を十分に持てず、保護者との信頼関係の構築や相互理解を得られる前に保育活動にも制限をかけざるを得ない状況が続いた。法人の理念に対する保護者理解の浸透が十分でないため、当法人としての取組の積極的な発信を課題に定めた。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評 連絡帳のやり取りや「ドキュメンテーション」、園が注力する「科学する心」に関する活動報告、各種お便り、動画の配信等による保育内容や子どもの様子の発信に引き続き取り組み、新型コロナウイルス感染症の第5類移行によって、日々の送迎時の対話をより丁寧に行うことができるようになったほか、希望者に保育体験行事を実施できたことで、子どもの様子や保育士の関わり方など、園としての取組を発信できた。また入園する前から園の保育理念をより理解できるよう、園パンフレットのQ&Aを作成し配付している。これらの保育を伝える取組は保護者から好評を得ており、今年度も引き続き保護者への保育内容の発信を取組課題としている。次年度以降は保育参加を実施したいと考えている。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

コロナ禍発生以降、感染対策の必要上、それまで設けていた系列園などの交流研修も見合わせが続いており、職員間の経験や保育観の違いなどから、法人の保育への理解の共有に難しさも生じていた。
そうした状況を踏まえ、法人の保育理念や「誉める保育」を組織全体により深く浸透させ、保育の質の向上を目指すため、職員を多くの研修に派遣することを目標に定めた。

目標の設定と
取り組み

- ☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- ☐ 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- ☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- ☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

新型コロナウイルス感染症の第5類移行によって、法人主催のさまざまな研修が再開し、系列他園では、各職員が同園に出向き、現場の保育の視察を行う研修も行われていたが、本園は近隣に園が少なく、交流を持つことが難しい事情もあり、外部のオンライン研修を個々に受講したのみとなり、園に還元するまでには至らなかった。

今年度も引き続き法人の研修に参加し、保育理念・「誉める保育」の浸透を目標に定め、最寄り園への訪問や、職員会議において、主任主体で研修を実施し、保育理念や「誉める保育」の理解を目指している。オペレッタ研修を受けた職員が園行事の内容を工夫するほか、OJT研修を受講した職員が相談役として信頼を得ている様子などから、研修の効果を職員が感じ始めている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目				
	サブカテゴリ-1				
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/4		
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している					
		評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目				
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		○非該当		
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		○非該当		
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		○非該当		
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		○非該当		
サブカテゴリ-1の講評					
ホームページの運営やパンフレットの作成により、園の情報を発信している 法人が作成しているホームページに当園の紹介ページが設けられている。施設の概要として、住所や電話番号、定員や保育時間などの情報が掲載されており、1日の園生活の流れや年間行事、周辺地図から園や避難場所の位置などの情報も得ることができるサイト構成となっている。またホームページに加え、3つ折りのパンフレットを作成している。園敷地を上空から撮影した全景写真や、木を積極的に利用した園舎内の環境の写真をさまざまに掲載し、雰囲気を与えているほか、保育理念や目標、保育の特色や費用負担などの情報も掲載している。 地域のイベントへの参加や地域媒体を活用し、園情報の発信に努めている 上記のパンフレットを渡す際には、よくある質問と回答をまとめたQ&A集も添え、疑問や不安の解消につなげている。また泊江市のイベントである「保育展」に参加し、資料や保育活動で作った作品・玩具などを持ち込み、園が目指していることを説明している。市が運営する「こまえ子育てねっと」のサイトにも当園の情報が掲載されており、住所や電話番号、延長保育の実施の有無に加え、上記の法人・園のホームページへのリンクが設定されている。また、市が作成している情報誌である「子育てガイドブック」にも当園の情報が掲載されている。 園見学では、子どもの様子や展示してある作品等を示しながら、保育内容を説明している 見学は午前中の時間帯に設定し、30分程度を目途に実施している。子どもたちの様子や動き、入口に掲示してある「ドキュメンテーション」や、園内各所に展示してある子どもの作品、園庭、アレルギーのある子どもへの食事提供などを見てもらいながら、保育内容を説明している。質疑応答も適宜行うほか、上記のパンフレットやQ&A集を用いて、施設選択にあたって必要な情報を、来園者のニーズに即して伝えるよう配慮している。また、見学希望の受付から実際の流れ、配付資料など対応をまとめたマニュアルを作成し、見学対応の標準化を図っている。					

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当	
サブカテゴリー2の講評			
入園が決まった家庭には説明会を行い、園の基本的なルール等を説明している 入園が決まった家庭には個々に連絡を取り、説明会と面談の日程を調整している。また、入園時に提出してもらう書類等を事前に郵送することとしている。説明会では、「入園のしおり(重要事項説明書)」に沿って、登降園の手続きや延長保育の利用、家庭との連絡方法や食事など、保育の内容や園生活を送るにあたっての基本的なルールなどを説明している。また、スライドを用いて特に重要なポイントをわかりやすく工夫して伝えるようにしている。説明後に保護者の意向を確認し、同意書への記名により同意を確認している。 書類や面談等により保育に必要な情報の収集に努め、職員間で共有を図っている 入園を控えた保護者に「個人調査表」などの書類を配付し、記入してもらった内容を踏まえて面談を行っている。必要に応じて提出してもらった書類に情報を追記し、記録を残している。けいれんなどの既往歴やアレルギーがある子どもに対しては、主任や看護師が同席してより詳細な情報を聴き取り、入園後の配慮や対応などについて説明している。得られた情報等は会議で共有するほか、書類を回覧するなどの方法により周知し、保育に必要な子どもの状況や家庭の意向などの理解に努め、保育サービスの提供につなげるようにしている。 入園後の子どもや保護者の負担などの軽減や、卒・退園後の関係の継続に配慮している 入園直後には、各家庭の状況に合わせて、保育時間を短い時間から徐々に長くしていく「慣らし保育」を実施し、生活の変化による子どもの負担やストレスの軽減を図っている。保護者の不安や疑問に対しても、送迎の時間等に質問に答えたり、園での子どもの様子を詳細に伝えるなど、細やかな対応に努めている。退園する家庭には、その後も育児相談等を受け付ける旨を伝えている。また、「もりんびっく(運動会)」に在園している子どものきょうだい児の参加を受け付けるほか、お迎えの際に卒園後の様子を聴くなど、関係・支援の継続を図っている。			

サブカテゴリ3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	13/13
3	個別状況の記録と計画策定		
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を 個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	☐ 非該当	
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	☐ 非該当	

評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	☐ 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	☐ 非該当
サブカテゴリー3の講評		
家庭の状況やニーズを把握し保育に反映し、園生活への理解が深まるよう取り組んでいる 入園時には子どもに関する情報を指定の書式に保護者に記入してもらい、健康面、生活習慣、連絡先などを把握している。入園後は原則年に1回の個人面談の機会を利用して園での様子を伝え、家庭で気になることを聴き取り、保育内容に反映している。5月頃に0・1歳児は保護者会を行い、事前アンケートとともに園での生活について説明している。2歳以上児では「ふれあい保育参観」を実施し、保護者のみでの懇談時間を取った後、保育室外から子どもの活動の様子を見学し、その後親子で一緒に保育を体験してもらうことで、園生活への理解を深めている。 指導計画は定期的な振り返りを行い、発達状況の記録とともに次の計画に活かしている 各指導計画は年間・週の各期間で作成し、長期・短期それぞれの保育の内容・ねらい等を定めている。0～2歳児と配慮が必要な子どもには個別案も作成し、0～2歳児では4期に分けての計画と振り返り、配慮が必要な子どもについては毎月の計画と振り返りを行っている。日常の保育はチームで行っているが、指導計画の策定は学年の担当が決まっており、1年を通じて子どもの育ちを把握し、次のステップへの支援がしやすいように工夫している。子どもの発達状況は個人記録や保育日誌に記録を残し、次の計画の策定に活かしている。 各計画や子どもの状況を職員間で共有し、園全体で把握できるような仕組みを整えている 各指導計画はICTシステムを利用しているため、どの職員でも参照することができるようになっている。個人記録はクラスごとにファイリングし、保護者からの要望など特記事項のある場合には文章で記録を残すようにしている。午睡時間の調整や遊びについてなど日常的な支援の変更については受け渡しファイルに記載して職員間で共有し、送り迎えの際の伝達がもれなくできるように確認合っている。全体の職員会議は土曜日を利用してなるべく多くの職員が参加できるようにし、全体で周知が必要な事項や各フロアの情報共有の場としている。		

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		☐ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		☐ 非該当
サブカテゴリ-5の講評			
子どものプライバシーや羞恥心、情報の利用に関する保護者の同意に配慮している 個人情報の利用目的を入園時に保護者に説明し、わかりやすく表で示したうえで、同意できない項目がある場合には同意書に番号を記入してもらっている。保護者の意向は職員がすぐ確認できるように一覧表にまとめ、職員共有用のファイルに綴じていつでも参照できるようにしている。取材対応などが入る場合には、別途撮影の可否について保護者に確認を取っている。保育中のプライバシー保護のため、水遊びの着替えやシャワーの際は目隠しのテントを利用したり、5歳児にプライベートゾーンの指導を行うなど、自分の身体を守るように関わっている。			
日々の保育や自己点検などを通じて、子どもの権利や意思の尊重に努めている 保育室では、子どもたちが自分で遊びたいものや場所を選んで実行できる環境の設定に努めており、食事は一定時間の中で子ども自身が空腹を感じたり、遊びに区切りがついた時など好きなタイミングで行えるようにしている。子どもへの呼び方や対応、着しや条件をつけるなど、具体的な望ましくない言葉等、子どもとの関わり全般を確認する「虐待セルフチェック」を毎月全職員が実施し、自らの保育を振り返り、故意または無意識の不適切な対応を予防し、子どもの権利や意思の尊重を、組織として徹底できるよう、認識の共有に努めている。			
虐待に関する理解を深め、日々の取組により虐待の早期発見や予防を図っている 家庭の育児に関する意向や考え方は、送迎時の会話や定期的に行われる個人面談などにて把握に努め、生活リズムの形成に向けた午睡時間の調節など、個別の対応に努めている。職員会議では、子どもへの関わり方として言葉遣いの注意点や、あだ名・呼び捨ての禁止などを確認している。また、保育所における虐待の類型の確認や、報道された不適切な保育の情報の共有なども行われている。登園時には視診により、家庭でのケガ等を随時確認するほか、子ども家庭支援センターからの照会への対応など、関係機関との連携の体制を整えている。			

サブカテゴリ6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(○○○)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(○○)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ6の講評			
マニュアルは法人共通のものや自治体・業者が作成したもの等を備えている 法人共通の各種マニュアルを備え、保育現場で直面するさまざまな状況に対する具体的な対応方法や職員に求められる行動基準を明示している。内容は、服装や電話対応など職員の心得や、食事・調乳など保育全般、衛生管理、感染症対応など多岐にわたる項目が網羅されている。これらのマニュアルは1冊のファイルにまとめられて職員室に常設され、職員が常時手に取り、内容を確認できるようにしている。また、泊江市が作成しているマニュアルや給食を委託している業者が作成しているマニュアルも活用し、業務手順や緊急時の対応の標準化を図っている。 法人共通のルールを踏まえて、具体的な業務手順を示した園独自の手順書を作成している 出勤時間ごとに職員の業務内容や流れ、休憩時間や掃除の場所等を明示した手順書を作成し、業務が円滑に進むよう工夫している。職員の位置取りや排せつの失敗に対する関わり方、登降園時の保護者対応や園庭・散歩時の安全管理など、保育現場における具体的な業務手順も同様に手順書を作成している。保育室にはSIDS発生時や頭を打った時の対応等を示した掲示物を備えている。また、アレルギー関連の誤食や窒息などの緊急時における職員の役割分担と各役割が行うことを示したカードを作成している。 ルールの周知・浸透を図り、保護者からの意見への対応は待たせないことを心がけている 職員会議で法人が作成した動画を紹介し、嘔吐処理やけいれんが起きた時の消毒手順や救急隊への連絡などについて確認している。また、書類の提出や労務管理に関する届け出など基本ルールの徹底を日々呼びかけ、規範意識の醸成を図っている。年度末にかけて重要事項説明書や書類等の見直しを行い、職員からのアイディアは必要に応じてリーダー会議やフロア会議で検討し、反映させている。保護者から意見が届いた時には翌日の朝礼で共有して速やかな改善を心がけ、必要があれば意図を説明して理解を求めるなど、保護者の不満を残さないよう配慮している。			

Ⅲ サービスの実施項目（カテゴリー6-4）

サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
		36/36
サブカテゴリー4 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	☐ 非該当
評価項目1の講評		
保育の中で見える子どもの姿を職員間で共有し、関わり方や環境設定に活かしている 日常的な保護者とのやり取りや、子どもの発達段階の把握から、各階で保育者が次の支援を考えるとともに、担当する保育者が同じレベルで理解できるように、フロア会議(乳児／幼児それぞれの担当者が参加する会議)で細かい子どもの様子や環境設定についてなど、こまめに話し合いを行っている。子どもが個々に好きな活動を選ぶため、職員や保護者がその日の子どもの様子を把握しやすいように、園庭に出た子の名前をボードに掲示するなどして、誰が見てもわかりやすいように情報共有の工夫を図っている。 子どもが自ら好きな遊びや活動を選べるなど、自主性を尊重した保育を行っている 保育室内では、子どもが好きな遊びを選んで過ごせるよう、手先指先を使うものを中心に、構造遊び、ごっこ遊び、制作、描画、絵カード、ブロック、パズルなど、さまざまな遊びのコーナーを設定している。異年齢クラスで過ごす中で、年下の子のお世話をしたり、道具や教材の使い方を年上の子の様子を見て学ぶなど、子ども同士の関わりの中でできることが広がるように工夫している。学年別に分けられたり、造形や表現活動に集中するような時には環境が独立した子育て支援室を活用して、活動しやすいように配慮している。 専門職や療育機関との連携により、支援が必要な子どもへの理解と対応を深めている 支援が必要な子どもの援助については、療育機関や市の支援センターの職員とも連携を図っている。心理や言語、作業療法士など、各専門職による巡回相談の際には事前に子どもの様子を記入し、実際の子どもの様子を見てもらい、子どもの関わり方へのアドバイスを受けている。また、今年度は療育の現場を見学できる機会も設けてもらい、保育者の学びや、より一層の子ども理解につなげている。小学校への就学にあたっては、保護者の希望がある場合には「就学支援シート」を保護者・園・療育機関がそれぞれ記入し、小学校への引き継ぎを行っている。		

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

口頭や連絡帳でのコミュニケーションのほか、さまざまな形で保護者への発信をしている

子どもの受け入れ時には口頭で家庭での様子を聴き取るほか、0～2歳児ではアプリ連絡帳を利用して、睡眠や食事、体温、排せつの状況などを把握し園での様子を入力して保護者へ配信している。また、玄関には幼児クラスの毎日の活動の様子を写真入りの掲示物で知らせたり、園が独自で掲げている「科学する心を育てる」という理念に関連する各クラスの活動を、写真を活用した「ドキュメンテーション」形式で掲示したり、法人研修に参加した職員が手作りした教材とその説明を展示するなど、保育内容への理解が深まるように情報発信している。

基本的生活習慣の獲得に向けて、家庭と連携しながら子どもへの指導に取り組んでいる

個人差の大きい0～2歳児については「食事及び排せつチェック表」を用いて、どの職員でも個々の子どもの状況が把握しやすいようにしている。食事の段階を進めたり、トイレのトレーニング、睡眠時間の調節などが生じる場合には保護者にも声をかけ、園での様子を伝えながら個別の支援が図れるようにしている。子どもに対しては手洗いうがいの習慣が身につくよう、保育者や看護師から話をしたり、幼児では職員が子どもと同じテーブルで食事を摂り、日々の生活の中でマナーなどを伝えられるようにしている。

睡眠などの休息は、個々の生活リズムや体力などを考慮して個別に調節している

0歳児など睡眠リズムの個人差が大きい時期には、個々の子どものペースで午前寝などの対応ができるようにしている。夜眠れないなどの理由で家庭から午睡時間の調整の要望があった場合には、子どもの様子を見ながら午睡時間を短くしたり、園での子どもの様子を保護者に伝えて、連携が図れるようにしている。5歳児は年度後半に午睡をなくしていく。5歳児だけの活動や外遊びなどに取り組めるようにしている。個別の変更点や家庭からの要望に対応した場合などは個人記録にも記載を残し、経過がわかるようにしている。

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	☐ 非該当
評価項目3の講評		
個々の興味関心に応じて自由に遊び込める環境を大切に保育を進めている 乳児・幼児ともに子どもが好きな遊びを選択できることを大切に環境を設定している。乳児では安全を保つために、教材のサイズやパーツの数の管理などに配慮しつつ、自分で手に取れる位置にままごとや乗り物、穴から落とす手作り玩具など、子どもの興味・関心が広がるようなコーナー設定をしている。幼児ではさらに選択の幅が広がり、糊・はさみやシール、パズル、構造遊び、制作、ごっこ遊び、人形遊びなど、さまざまな教材・玩具の中から、子どもがそれぞれにやりたいものを選び、満足して自ら区切りがつくまで自由に遊ぶことを保障している。 気持ちへの寄り添いや言葉の豊かなやり取りを積み重ね、表現する楽しさを味わっている 1年を通してリズム遊びや表現活動(オペレッタ)に取り組み、年齢に応じた内容で楽しみながら、多様な言葉とふれ合う機会を設けている。上手に演じることだけを目的とせず、身体の使い方や気持ちの表現など、オペレッタを演じるまでの過程で、幅広い能力が育まれるように工夫している。乳児では言葉のやり取りの楽しさを味わったり、子どもの気持ちに共感・代弁し、表現する心地よさを感じられるように関わっている。幼児では表現活動の時間以外にも、子どもが好きなタイミングでCDなどを使って歌やダンスを楽しむこともできるようにしている。 戸外活動で季節の変化を楽しんだり、栽培や調理など連続性のある保育につなげている 近くの寺社や公園に散歩に行くほか、園庭では固定遊具や築山・砂場、三輪車、縄跳び、ごっこ遊びなど、思い思いに身体を動かしたり、友達との関わりを楽しんでいる。園庭に植えられた木にはどんぐりがさまざまに実り、拾ったり造形活動に活用したりして季節感を味わっている。気候のよい春や秋には、調理室で作った弁当を持参して公園で遊ぶピクニックを、2歳以上児で実施している。4・5歳児は近くの農園でサツマイモの水やりやつる返しなど、栽培のプロセスにも携わり収穫した芋でクッキング活動をするなど、連続性のある保育活動につなげている。		

4 評価項目4

日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点(○○○)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当

評価項目4の講評

子どもたちが創り手となり、年上への憧れを持ちながら楽しんで行事に取り組んでいる

夏祭りの装飾、運動会の万国旗やオペレッタテーマにちなんだ制作など、行事のテーマに関する制作物は子どもたちが創り手に回り、行事の雰囲気をも十分に楽しめようとしている。5歳児の演目は、職員からは特に指定をせず、子どもたちが年長になったらやってみよう、という憧れや期待感を持って、子ども同士の話し合いのもと、同じ演目がさまざまに引き継がれている。乳児では、日頃の活動の延長として無理なく行事に臨めるような視点を大切に、行事の企画を進めている。保護者参加の大きな行事以外にも、季節や文化を楽しめる園内行事を開催している。

子ども同士での話し合いや協力する経験を通じて、やりがいや達成感を味わっている

「もりんびっく(運動会)」や「フェスティバル(発表会)」は、近隣の中学校の体育館を借り、広い空間で保護者の前で発表することで、子どもたちがやりがいを持って遊戯やオペレッタに取り組んでいる。もりんびっくでは5歳児のリレーやパラバルーン演技、フェスティバルでは絵本をもとにしたオペレッタや歌、ダンスなどを披露している。練習の段階で子どもたちがやりたい内容を話し合ったり、姉妹園の動画を見てイメージをふくらませたりし、最終的に発表という形で友達と協力し合って形作った演目をやり遂げる達成感を味わっている。

日々の生活の積み重ねから行事に至るプロセスが、保護者に伝わるよう工夫している

行事に向けての取組は毎月の園便り・クラス便りや、玄関への掲示物などを通して子どもの様子を保護者に写真付きで伝え、子どもの育ちや取組の意味が保護者にも伝わるように工夫している。行事当日は、わが子以外の年齢の演目も楽しんでもらえるよう、組み合わせに配慮している。行事開催後は保護者アンケートを採り、観覧人数やプログラム構成の参考にしている。また、日頃の生活の様子を保育者が撮影した写真を、玄関に設置したフォトフレームにスライドショーを流すことで、保護者に生活の積み重ねのイメージがわかりやすいように工夫している。

5	評価項目5	保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目				
☒ あり ☐ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	☐ 非該当			
☒ あり ☐ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	☐ 非該当			
評価項目5の講評					
休息や食事のタイミングなど、子どもに寄り添った保育でくつろげるよう配慮している 保育室内にはマットのスペースなど、静かにゆったり過ごすことのできる場所が設けられ、昼食はお腹の空き具合や遊びの区切りがついたタイミングで、食事時間が選べるようにしている。日中の活動は室内と戸外を自由に選べるようにして、個々の主体性を尊重している。午前中や夕方に眠くなってしまう子には個別に布団を出したり、子どもの数が減ってくる夕方の時間帯には、静かにゆったりと保育者と関わって遊ぶなどし、子どもが寂しさを感じることなく、リラックスして過ごせるように配慮している。 慣れた環境で延長保育の時間帯を過ごし、飽きることなく過ごす工夫がなされている 延長保育の時間帯などでも、乳児と幼児は無理に合同にはせず、それぞれ慣れた環境・職員とともに、安心して過ごせるように体制の工夫をしている。静かにゆったり過ごしたり、動きたい子は自分で音楽を流してダンスを楽しんだり、遊びの空間を分けるなどの配慮をしている。玩具については普段とは違うものを出すなどして、飽きることのないようにしている。補食や夕食も各保育室で提供し、補食用にはおにぎりやパンケーキを用意して、夕食を摂る子どもも、寂しくならないように職員がそばにつき、楽しく会話しながら食べるように援助している。					

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当

評価項目6の講評

子どもの発達やその日の体調などにより、個々に応じた食事が摂れるようにしている

離乳食期の子どもは、発達の状況に応じてベビーチェアや子ども椅子などを使い分け、食べやすい環境に配慮している。歩行が安定した幼児食の子どもは、何名かずつで大きなテーブルを使い、自分で食べ進められるようにしている。1歳児は次の進級を見据えて、個々に盛りつけられた皿を職員が配るところから、徐々に量の調節や自分で運ぶように取り組んでおり、幼児クラスになると遊びの区切りがついたところで好きなタイミング、好きな席で食事を摂っている。量を減らすだけではなくおかわりの用意もあり、その日に合わせて食事を摂れるようにしている。

調理委託先との連携により、食事が楽しみになる献立や提供方法の工夫がなされている

調理業務は専門業者に委託しており、専門性を活かした献立作成や調理を行ってもらっている。委託先と園側との連携を深めるため、毎月1回給食会議を開催し、子どもの食べ具合や調理形態の確認、行事や食育活動の予定確認、事故報告、アレルギーの確認などを行っている。献立には季節行事に合わせたメニューや日本各地の郷土食、4・5歳児の話し合いやアンケートによるリクエスト献立の日など、食事が楽しみになるような工夫もなされている。遠足用の弁当を給食室で用意するなど、園の行事とも連携を図っている。

子どもの食への関心が高まる食育活動や、保護者への食の啓発に取り組んでいる

5歳児がプランターでの夏野菜の栽培に取り組んだり、各年齢に応じたクッキング活動など、食への興味・関心が幅広く高まるよう工夫している。クッキングでは、畑で収穫したサツマイモでプリンやおさつスティックを作り、子どもがおかずを考えて調理し、詰めて園庭で食べる弁当作りなど、さまざまな取組を行っている。業務委託先の栄養士も定期的に来園し、子どもの様子を見たり、食育活動にともに参加して、子どもへの指導を行っている。0歳児の保護者会では離乳食の試食も提供し、栄養士の解説を添えて、家庭での参考にしてもらっている。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	☐ 非該当
評価項目7の講評		
保健指導や日々の生活の中で、健康に関心を持ち、身を守る力の育ちを図っている 保健指導では絵本やペープサート(紙人形劇)等を用いて理解しやすい工夫するほか、指導の意味や効果を伝え、自分の身を守る力の育ちを促している。手洗い指導の際にはスタンプを用いて効果を可視化し、プライベートゾーン指導では、権利の尊重の意味も込めて子どもたちに伝えている。保育室には子ども用の化粧台とティッシュが常設され、自分で鼻・口周りの衛生や身だしなみを整えることができるようになっている。また、日々の生活の中で清潔や衣服の調整などについて伝え、散歩や園庭での活動を通じて子どもたちの体力向上を援助している。 地域資源との連携を図り保健面の支援を得て、子どもの健康維持に向けて努めている 近隣の医療機関の一覧や、ケガが発生してから病院受診までの流れなどに加え、救急車の呼び方や食物アレルギーへの対応についてまとめた掲示物を備えておき、緊急時の対応の標準化を図っている。また、医療機関の一覧は一つの診療科に対して複数の病院の情報を掲載することで、病状や子どもの年齢などから、対応の選択肢を増やせるよう工夫している。月に一度健康診断の際に園医が来園することになっており、その際に近隣地域で流行している感染症について情報を得たり、園で起きたケガの対応について相談窓口となってもらうなどの支援を得ている。 既往歴やアレルギー等の情報を共有し、感染症の情報や保健指導の様子等を発信している 既往歴などの情報は、入園時に各家庭から把握している。得た情報のうち、熱性けいれんや食物アレルギーなど、配慮が必要となる点については、薬の情報や、保護者に連絡する基準となる体温などの情報を一覧表にまとめ、各保育室に備えており、食物以外のアレルギーや蜂に刺されたことなどについても共有している。園内に感染症が発生した時には、玄関への掲示や保育アプリを通じて情報を発信し、保健便りではSIDS対策としての仰向け寝の啓発や園での取組のほか、実施した保健指導の様子などを保護者に伝えている。		

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当

評価項目8の講評

行事日程・保育時間の変更・多様なサービス等、さまざまな保護者支援に取り組んでいる

年間行事予定表を4月に配信し、保護者が参加する行事は土曜日に設定するなど、保護者のスケジュール調整に配慮している。保育時間の変更や補食の申し込みは14時まで連絡アプリで行うことができ、電車の遅延や残業などによる急な保育時間の延長については電話で受け付けている。また、補食の申し込み時間を過ぎた場合でも、市販品のおやつを代わりに提供するなど、柔軟な対応に努めている。玄関に絵本の貸し出しコーナーを設けたり、おもつのサブスクリプションサービスも利用可能とするなど、多様な保護者支援に取り組んでいる。

保護者を園の保育に招待するとともに、保護者同士が交流する機会を設けている

園の保育活動への保護者参加・参観の機会として、「ふれあい参観」を実施している。親子でアメリカンドッグやホットケーキを作る取組や、保育室を見学して普段使用している教具で実際に遊んでみるほか、年齢によっては扉のガラス窓に目隠しを付けて、普段の園での子どもの様子を見てもらうなど、クラスによって内容をさまざまに企画している。また、保護者同士で懇談する時間を設け、サイコロを振って出た目で話題を決めて自己紹介をしたり、イヤイヤ期の対処法等の育児に関する話題を提供するなど、場を盛り上げ、交流を深める工夫を行っている。

保育や育児情報の発信、面談の実施など、園と保護者の信頼関係が深まるよう努めている

写真を積極的に使用したお便りや「ドキュメンテーション」などを通じ、子どもの様子や発達の特性、保育の取組などを積極的に発信している。保護者会では栄養士から食事についての話を伝え、離乳食の試食も設けるほか、事前に出欠確認を行う際に、保育や子育てについての疑問等を募り、当日回答するなど、育児への支援を積極的に行っている。定期的に個人面談を行い、園と家庭での子どもの様子を共有し合い、個々の課題を設定している。保護者と職員の関係づくりのきっかけとして、玄関には職員の写真とともに、好きな食べ物や趣味などを掲示している。

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当
評価項目9の講評		
近隣の農園での体験や、戸外活動を通じて多方面との交流などが行われている 近隣にある農家の畑を借りて、今年はサツマイモを植えるところから始め、水やりやつる返しなどのお世話を行い、収穫まで体験している。好天の日は散歩に出る時間を積極的に設けている。2歳以上児は遊具がある公園を積極的に選んで多様な遊びができるよう工夫し、すぐ近くにあるお寺には0・1歳児が出かけるなど、年齢や目的に合わせて場所を選定している。また、保育者との散歩で駅前の警察署を通りかかる際には、警察官と挨拶を交わすなどし、少し距離のある消防署まで出かけて救急車や消防車を見せてもらうなどの交流を行っている。 さまざまな人を園に招き、子どもたちが多様な体験や交流ができるようにしている バイオリン奏者を園に招いて演奏会を行う取組では、子どもたちに本物に触れる体験を設けるとともに、町内会の人や民生委員、保護者を招待するなど、さまざまな人たちと交流を深めている。また外部から講師を招いての多様な保育プログラムに加え、英語では外国人が講師を務めており、目の色や肌の色が違う人が身近にいる環境を通じて、多様性への理解や人と関わる力の育ちを促している。同法人が運営する系列園とも連携し、園長が互いの園でクリスマス会のサンタ役を務めて子どもたちを盛り上げる機会なども持たれている。		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル①	行った保育活動の様子やねらい、子どもの反応などを、積極的に保護者に発信している	
内容①	日々の保育の様子を写真に収め、コメントを付した「ドキュメンテーション」を玄関に掲示している。保育中に撮影した写真をスライドで投影するフォトフレームも設置するほか、各所に子どもたちがブロック等で作った作品を飾り、2階の保育室に向かう階段には、造形活動で作った子どもたちの作品を積極的に展示している。また、毎月担当者を決め、さまざまな発見や科学的興味の伸長に向けて取り組んだ活動や子どもの反応、保育者の関わりなどを、日々の活動とは別に、写真を活用した「ドキュメンテーション」に示して保護者に発信している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-6-2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている
タイトル②	保護者などから得られた意見や要望を積極的に採り入れ、さまざまな改善に活かしている	
内容②	保護者が園の保育活動を見たり、実際に参加する「ふれあい参観」を行い、教具に触れたり親子クッキングを行うなど、多様な保護者参加行事を展開している。それらの行事などの後に実施するアンケートによって得られた要望等を、積極的に改善に反映させている。「もりんびっく(運動会)」では保護者競技や親子競技を増やし、会場の準備や進行の手順を見直し、待ち時間を短くするなどの工夫を行っている。また、入園希望者からよく寄せられる質問と回答をまとめたQ&A集を作成し、施設選択や入園にあたっての不安や疑問の解消に活かしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル③	地域資源を活用し、子どもたちにさまざまな体験の機会を設けている	
内容③	バイオリン奏者を招いての演奏会を開催するほか、専門講師を招いて造形教室やオペレッタ(音楽劇表現)を行い、子どもたちの豊かな感性を育むとともに、職員以外の人と交流する機会を設けている。誕生日には子どもと職員が一緒に花を買いに行き、栽培活動に使用する苗は、子どもたちが農協に買いに行き、近隣の農家の畑を借りて栽培活動を行い、ピクニックでは移動手段に公共の交通機関を使用し、好天の日には近くのお寺や公園に散歩に出るなど、地域資源を活用したさまざまな活動を積極的に行っている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	毎日の生活は異年齢の関わりと自由遊びを通して自己決定の積み重ねを大切にしており、個々の子どもの成長につなげている
	内容	異年齢保育や自由遊びを通して、子ども自身がやりたいものに夢中になり、年齢の違う子どもとの関わりの中で学び合う関係が育まれている。室内に用意する教材や玩具、子どもたちへの関わり方などは、園内の話し合いだけでなく、系列園の見学に行ったり、他園職員に見に来てもらう機会などを通じて意見交換を行い、子どもの姿に合った環境の提供ができるように、定期的な見直しにつなげている。乳児クラスについても、できる限り自分の意思で選択する機会を増やし、幼児クラスへの進級を見据えた生活を積み重ねている。
2	タイトル	子ども一人ひとりのペースで生活習慣の自立が図れるよう、子どもができることを増やし、職員が把握するための工夫がなされている
	内容	自分の身の回りのことを理解し、自分でできることを増やすための工夫がなされている。遊びの区切りがついたら手洗いをして食卓についたり、着替えやおむつの管理は個別のロッカーから自分で出し入れしたり、食器の下膳は1歳児などできる子から順に取り組むなど、生活習慣の自立に向けた小さな積み重ねがなされている。食事やトイレは個人差があるので、チェック表を利用して職員が把握している。また、成長・発達の場合に応じ、1歳児は4月を待たずに幼児クラスに移行していき、急激な環境や生活の流れの違いに戸惑うことのないように配慮している。
3	タイトル	系列園との職員交流により、課題や特長の明確化を行い、保育や保護者支援の質を高めるための実践につなげている
	内容	今ある環境ややり方に固執することなく、持てる人的・物的資源をさらに活用できるよう、改善を重ねている。系列園との職員交流も図られ、他園の取組を参考に、自園でできることや強化したいことの明確化につなげている。今年度は、図書館コーナーを設けて絵本の貸し出しを始めたり、送り迎えの際に見てもらえるフォトフレームを設置し、日頃の写真をスライドショーで流したりするほか、法人研修で玩具作りを行い、子どもに提供した様子までフィードバックし、職員による委員会活動も本格的に稼働し始めるなど、新たな試みもさまざまになされている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	園の課題解決や改善への取組を、中・長期的な視点のもとで計画化し、単年度計画とも同期させ、着実に実行してゆくことが期待される
	内容	園内の諸問題の解決や保育の質の向上を目的として、今年度保育・環境・広報・安全などの委員会活動を開始し、成果も出始めているが、これらの活動は、現状では計画化がなされていない。こうした現場の職員が主体的に課題を設定し取り組む改善活動の活性化と、成果を保育実践に活かすプロセスの確立や、その他の複数年度を視野に入れた諸課題を、目標や成果の指標などとともに、中・長期的な視点で計画化することが期待される。また単年度の計画とも同期させながら組織全体で共有し、PDCAのサイクルのもとで、着実に実行してゆくことも期待したい。
2	タイトル	個人別の成長支援のさらなる充実を図り、職員の意欲向上を促せるよう、職員が成果を実感できる目標設定の工夫に期待が寄せられる
	内容	個人別の職員の育成は、園長との面談を軸に実施されている。職員は年度当初に、目標・現在の状況・力を入れて取り組みたいことを面談資料に記入し、園長が職員から詳細を聴き取り、応援と支援の意を伝えるほか、助言も行っている。成長支援のさらなる充実を図り、職員の意欲向上を促せるよう、目標設定の工夫に期待したい。現状の定性的な目標は、職員がなりたいたい姿を示すために効果があると思われるが、その目標に加え、職員が自ら実践の成果を実感でき、組織内で賞賛し合えるよう、具体的な取組内容と定量的な指標の設定も一考に値すると思われる。
3	タイトル	実践の記録「ドキュメンテーション」を保育の検証の素材、次代の保育者の参考としての再活用を想定した記載や整理の工夫に期待したい
	内容	日々の保育や行事のほか、数年来取り組んでいる「科学する心」を育むための、保育・食育・保健など多分野横断的に実践される取組が「ドキュメンテーション」に、写真に子どもたちの発言や保育者の考察を添えて記録され、保護者に発信されている。ドキュメンテーションは、発信媒体としてだけでなく、保育の検証の素材や、次代の保育者の参考教材などとしても、有用な資源となるものと考えられる。蓄積されてゆくドキュメンテーションの再活用を想定し、検索性を高める記載時の工夫や整理・分類に一考の余地があると思われ、今後に期待が寄せられる。